

令和 3 (2021) 年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	環境と社会 (Environment and Society) 2013011-038					担当教員	西俣先子 (ニシマタ ヒロコ)		
科目区分	教養科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	1 年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要
環境問題の知識を身につけることを目的とする。環境問題の知識を得ることは、自分の生活や人間の経済活動が環境に及ぼす影響を理解することにつながる。本授業では、主要な環境問題の実態についての知識、および、課題や対策について考える力を身につける。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力／情報収集・分析能力
③ 授業の進め方・指示事項
必要に応じてプリントを配布する。授業内容を理解しやすくするために映像等も利用する。授業中に 出題した課題の提出期限を守ること（提出期限を過ぎたものは受け取らない）。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
⑤ 標準的な達成レベルの目安
(i) 現在問題とされている主要な環境問題の実態を理解できるようになる。 (ii) 環境問題を解決するための社会経済セクターの対応を社会の仕組みを理解しながら考えることができるようになる。
⑥ テキスト（教科書）
東京商工会議所編著（2019）『改訂 7 版 環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター *改訂 8 版が出版された場合には、そちらを購入すること。
⑦ 参考図書・指定図書
環境省サイト『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』 <a href="http://www.env.go.jp/policy/hakusyo">http://www.env.go.jp/policy/hakusyo</a>

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	70%		20%			10%		100%
(i) 主要な環境問題の実態を 理解できるようになる。	50%		20%			5%		75%
(ii) 主要な環境問題について、 他人に説明できるようになる。	20%					5%		25%
フィードバックの方法	課題は総評を公表する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
引き続き、丁寧な解説と分かりやすい授業資料や映像の活用を行いたい。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	イントロダクション	シラバス	シラバスを熟読し授業の目的を理解したうえで授業に参加する	10分
2	人間の活動の拡大と環境問題	教科書	教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
3	人間活動の拡大を理解する エコロジカル・フットプリント	教科書	教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
4	森林問題	教科書	教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
5	砂漠化	教科書	教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
6	典型7公害から 大気汚染に関する基礎知識	教科書	教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
7	典型7公害から 大気汚染問題の歴史と対策	教科書	教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分

8	典型 7 公害から 水質汚濁に関する基礎知識	教科書	教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。	60 分
9	典型 7 公害から 水質汚濁問題の歴史と対策	教科書	教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。	60 分
10	水問題の現状と対策	教科書	教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。	60 分
11	交通と環境問題	教科書	教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。	60 分
12	都市化に伴う環境問題 ヒートアイランド現象を事例として	教科書	教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。	90 分
13	化学物質のリスクとリスク管理	教科書	教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。	60 分
14	化学物質のリスク アスベスト問題を事例として	教科書	教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。	60 分
15	まとめ		学んだ内容の再確認を行う。	90 分

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。授業中にコメントを記入してもらい、コメント内容を利用する形で授業を進める。また、学生と問答をかわしながら授業を進める。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性

